

公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

第12回（2021年度）

事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

I. 事業概況

2021年4月1日から2022年3月31日までの当年度は、公益財団法人化後[※]実質11年目の事業年度である。（[※]2011年3月31日が公益法人移行日のため形式上12年目で、報告書も第12回となる。）今年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動規制の影響を受ける中での活動となったが、計画段階においても影響範囲がある程度想定できていたため、事業活動に関しては、ほぼ計画どおり遂行することができた。但し、助成事業および環境事業においては、応募者数の減少や、海外渡航できず助成者の活動が進まないなどの影響を受けている。詳細は以下のとおりである。

1. セミナー事業

セミナー開催は、前年度同様大阪府が定めるイベント開催ルールに沿った形で参加者数を従来の半数とし、オンライン同時配信をおこなうハイブリッド形式にて計画どおり5回実施した。また、オンライン配信した映像は、財団YouTubeチャンネルにおいて一定期間アーカイブ配信を実施した。会場参加者数は合計310名、開催後1ヶ月時点でのYouTubeチャンネル視聴数は合計3047回となった。各セミナーの詳細は、次の通りである。

(1) カーボンニュートラルへどう取り組むか～新時代のエネルギー政策を考える～

2021年7月20日 於：ウェスティンホテル大阪2階 ソノーラ

会場出席者：82名 YouTube視聴回数：930回（1ヶ月後）

第1部 「『時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニー』への進化と持続可能な社会の実現に向けて」

講師：大阪ガス株式会社 代表取締役社長 藤原 正隆 氏

第2部 「我が国のカーボンニュートラルとグリーン成長戦略について」

講師：公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）理事長・研究所長 山地 憲治 氏
フォローセッション

講演者：藤原 正隆 氏、山地 憲治 氏

ファシリテーター：小坂 肇（財団理事長）

(2) インドネシアの最新ビジネス事情～ASEANの大国とどう関係を深めるか～

2021年10月13日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：71名 YouTube視聴回数：943回（1ヶ月後）

第1部 「インドネシアのビジネスチャンスとリスク～ビジネス展開についての現状と展望～」

講師：株式会社日本触媒 代表取締役社長 五嶋 祐治朗 氏

第2部 「インドネシアはなぜ日本にとって重要なのか；20年先を見て考える」

講師：りそな総合研究所株式会社 顧問 石井 正文 氏
（前駐インドネシア特命全権大使）

パネルディスカッション

パネリスト：五嶋 祐治朗 氏、石井 正文 氏

平松 一郎 氏（りそなブルダニア銀行 取締役社長）

コーディネーター：濱田 美紀 氏（ジェトロ・アジア経済研究所 開発研究センター長）

- (3) 世界の政治・経済動向を展望する～2022年日本はいかに行動変容すべきか～
 2022年1月27日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ
 会場出席者：45名 YouTube視聴回数：※439回（1ヶ月後）※ライブ配信+7-カイブ2/7～2/27
 第1部 「米中対立とアジア・オセアニア」
 講師：公立大学法人兵庫県立大学 理事長 五百旗頭 真 氏
 第2部 「2022年の世界経済・日本経済展望」
 講師：BNPパリバ証券株式会社 グローバルマーケット統括本部 副会長 中空 麻奈 氏
 パネルディスカッション
 パネリスト：五百旗頭 真 氏、中空 麻奈 氏
 コーディネーター：鷺尾 友春 氏 財団理事（関西学院大学フェロー・元ジェトロ理事）
- (4) 2025年万博を新時代の羅針盤に～よりハイレベルな関西・アジアの経済連携を求めて～
 2022年3月8日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ
 会場出席者：70名 YouTube視聴回数：413回（公開約1ヶ月後）
 第1部 「アジアにおける事業展開～失敗から得る教訓～」
 講師：丸一鋼管株式会社 代表取締役会長兼CEO 鈴木 博之 氏
 第2部 「2025大阪・関西万博の最新動向」
 講師：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 代表理事・事務総長 石毛 博行 氏
 フォローセッション
 講演者：鈴木 博之 氏、石毛 博行 氏
 ファシリテーター：小坂 肇 （財団理事長）
- (5) 第9回環境シンポジウム
 プラスティック：サーキュラーエコノミーを考える
 2021年11月11日 於：シティプラザ大阪 2階 燦の間
 会場出席者：42名 YouTube視聴回数：※322回（1ヶ月後）※ライブ配信+桂川氏講演
 基調講演 「川から海へ、意識をつなぐ『かめおかプラスチックごみゼロ宣言』」
 講師：亀岡市 市長 桂川 孝裕 氏
 基調講演 「地域の河川からプラゴミを消したい！
 ～インドネシアの伝統的粗放型エビ養殖地域における住民たちの思いと実践～」
 講師：特定非営利活動法人APLA 事務局長 野川 未央氏
 基調講演 「サーキュラーエコノミーの全容と世界の最前線」
 講師：一般社団法人サーキュラーエコノミー・ジャパン 代表理事 中石 和良氏
 パネルディスカッション
 パネリスト：桂川 孝裕 氏、野川 未央 氏、中石 和良 氏
 コーディネーター：阿部 健一氏（財団環境事業選考委員長）

2. 助成事業（アジア・オセアニア研究助成）

2022年度の助成プログラムとして、「調査研究助成」「国際学術交流助成」「出版助成」を2021年6月7日より7月30日まで公募し、合計100件の応募を得た。選考委員による選考の結果、計26件24,800千円の助成を12月開催の理事会で決定した。その後、助成決定者より4名の辞退者が出たため、22件20,570千円の助成で最終確定した。助成金は3月24日に交付（交付手続未了者除く）。各助成の内容は、次の通りである。

（1）調査研究助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）で調査研究活動を行う若手研究者への助成であり、59件の新規応募を受け、選考の結果、16件10,500千円（継続案件0円）の助成を決定した。

2名辞退の申出があり、計14件9,470千円の助成を実施。

（2）国際学術交流助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との学術交流促進を目的とした人文・社会科学分野の国際シンポジウム・国際会議の開催に対する助成であり、8件の応募を受け、選考の結果3件5,900千円の助成を決定した。

1名辞退の申出があり、計2件3,900千円の助成を実施。

（3）出版助成

アジア・オセアニア諸国・地域の人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）に関する研究成果を出版・広報する者への助成で、33件の応募があり、選考の結果7件8,400千円の助成を決定した。

1名辞退の申出があり、計6件7,200千円の助成を実施。

なお、コロナ感染症の影響により、調査研究助成活動では渡航できず活動が停滞している者が大半であり、対象者へは活動期間の延長対応をおこなっている。また、国際学術交流助成活動においても、計画した開催が困難なものは日程の延期に応じている。

3. 環境事業

アジア・オセアニア地域における自然環境保護を目的とした支援事業として、「2022年度りそな環境助成」の公募を2021年6月7日より8月31日までおこない、新規案件を8件応募を得た。選考委員による選考の結果、新規案件2件、継続案件7件、合計9件9,000千円の支援を12月開催の理事会で決定した。助成金は3月24日に交付。

なお、コロナ感染症の影響により、進行中の助成事業において、活動中止1件、活動延期1件、活動内容変更3件が発生している。

環境事業助成者向けの交流会として、2021年9月29日第4回環境ワークショップをオンラインで開催。助成者13名が参加し、ゴミ問題をテーマとしてディスカッションをおこなった。

II. 庶務事項

1. 理事会

(1) 2021年度第1回理事会（オンライン開催：ZOOM使用）

開催日：2021年5月18日 於：財団事務所

議案：1. 2020年度計算書類・事業報告承認の件
2. 2021年度定時評議員会開催の件

報告事項：1. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告
2. 各事業の運営状況について

以上、議案1及び議案2は可決承認された。

(2) 理事会みなし決議（電磁的記録による開催）

議案：1. 2022年度アジア・オセアニア研究助成選考案の承認
2. 2022年度りそな環境助成選考案の承認

電磁的記録による同意みなし決裁日 2021年12月28日

(3) 2021年度第2回理事会（オンライン開催：ZOOM使用）

開催日：2022年2月17日 於：財団事務所

議案：1. りそな銀行からの寄附金受入の件
2. 2022年度事業計画・事業予算承認の件
3. 2022年度特定資産運用方針承認の件
4. 「個人情報保護規程」改定の件

報告事項：1. 今年度の業務実施状況概要説明
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告

以上、議案1～議案4まで可決承認された。

2. 評議員会

(1) 2021年度定時評議員会（書面開催）

議案：1. 2020年度計算書類・事業報告の承認
同意書によるみなし決裁日 2021年6月8日

3. 選考委員会

(1) 第12回助成事業選考委員会（オンライン開催：ZOOM使用）

開催日：2021年12月6日 於：財団事務所

- 議案：1. 助成案件選考の件
2. 2022年度事業計画について

以上、第1号議案にて助成案件が選考され、第2号議案は可決承認された。

※1次選考については、9月17日メール会議にて実施。

(2) 第12回環境事業選考委員会

開催日：2021年12月15日 於：ホテルグランヴィア大阪 21階 楓の間
2次選考面接をオンラインZOOM会議形式にて6名実施。その後会議に入った。

- 議案：1. 助成案件選考の件
2. 2022年度事業計画について

以上、第1号議案において1案件のみ要協議となり、その他の案件は選考された。
第2号議案は可決承認された。

※1次選考については、10月11日メール会議にて実施。

※要協議案件は、1月17日にメール会議を実施し不採択となった。

4. 届出事項

(1) 内閣府への届出等

2021年6月14日 事業報告等の提出を行った。

2022年3月15日 2022年度事業計画書等の提出を行った。

5. その他

(1) 「アジア・オセアニア研究助成」「りそな環境助成」の応募・選考に関する業務を、完全にオンライン化（ペーパーレス化）。併せて関連書式を財団HPへ掲載し、助成業務の見える化を完了。

(2) りそな銀行より、2022年3月16日、公益事業目的として新たに50百万円の追加出捐を受けた。

(3) 業務のオンライン化に併せて、事務所内の下記機器、設備を更新。

- ・ネット回線リニューアル（9月）
- ・亚克力板・空気清浄機設置（9月）
- ・会計システム更改（3月）
- ・LANディスク交換（3月）

以上

セミナー事業実施状況(2021年度)

		第39回	第40回	第41回	第42回				
開催日		2021年7月20日(火)	2021年10月13日(水)	2022年1月27日(木)	2022年3月8日(火)				
時間		15:00～17:40	15:00～18:00	15:00～17:50	15:00～17:50				
場所		ウェスティンホテル大阪2階 ソノーラ	ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ	ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ	ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ				
テーマ		カーボンニュートラルへどう取り組むか ～新時代のエネルギー政策を考える～	インドネシアの最新ビジネス事情 ～ASEANの大国とどう関係を深めるか～	世界の政治・経済動向を展望する ～2022年日本はいかに行動変容すべきか～	2025年万博を新時代の羅針盤に ～よりハイレベルな関西・アジアの経済連携を求めて～				
基調講演 タイトル 講師		<第1部:講演> 『時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービス カンパニー』への進化と持続可能な社会の実現に向けて」 <講師>大阪ガス株式会社 代表取締役社長 藤原 正隆 氏	<第1部:講演> 「インドネシアのビジネスチャンスとリスク ～ビジネス展開についての現状と展望～」 <講師>株式会社日本触媒 代表取締役社長 五嶋 祐治朗 氏	<第1部:講演> 「米中対立とアジア・オセアニア」 <講師>公立大学法人兵庫県立大学 理事長 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長 五百旗頭 真氏	<第1部> 「アジアにおける事業展開～失敗から得る教訓～」 <講師>丸一鋼管株式会社 代表取締役会長兼CEO 鈴木 博之 氏				
		<第2部:講演> 「我が国のカーボンニュートラルとグリーン成長戦略について」 <講師>公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE) 理事長・研究所長 山地 憲治 氏	<第2部:講演> 「インドネシアはなぜ日本にとって重要なのか、20年先を見て考える」 <講師>リそな総合研究所株式会社 顧問(前インドネシア特命全権大使) 石井 正文 氏	<第2部:講演> 「2022年の世界経済・日本経済展望」 <講師>BNPパリバ証券株式会社 グローバルマーケット統括本部 副会長 中空 麻奈 氏 (リモート参加)	<第2部> 「2025年大阪・関西万博の最新動向」 <講師>公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 代表理事・事務総長 石毛 博行 氏				
		<第3部:フォローセッション> 講演者:藤原 正隆 氏、山地 憲治 氏 ファシリテーター:小坂 肇(財団理事長)	<第3部:パネルディスカッション> パネリスト:五嶋 祐治朗 氏、石井 正文 氏、 平松 一郎 氏(リそなブルダニア銀行 取締役社長)(リモート参加) コーディネーター:濱田 美紀 氏 (ジェトロ・アジア経済研究所 開発研究センター長)	<第3部:ディスカッション> パネリスト:五百旗頭 真氏、中空 麻奈 氏(リモート参加) コーディネーター:関西学院大学フェロー 鷲尾 友春 氏 (財団理事)	<第3部:フォローセッション> 講演者:鈴木 博之 氏、石毛 博行 氏 コーディネーター:小坂 肇 (財団理事長)				
申込者数		118名(会場) ※会場のみ申込受付	83名(会場) ※会場のみ申込受付	94名(会場) ※会場のみ申込受付	83名(会場) ※会場のみ申込受付				
出席者数		82名(会場) / 930回(web視聴・当日～1ヶ月後)	71名(会場) / 943回(web視聴・当日～1ヶ月後)	45名(会場) / 439回(web視聴・当日～1ヶ月後) ※1	70名(会場) / 413回(web視聴・当日～1ヶ月後)				
アンケート回答枚数		61名(会場) / 107名(web)	39名(会場) / 44名(web)	29名(会場) / 45名(web)	44名(会場) / 30名(web)				
アンケート回答者業種		会社員・団体職員	会社員・団体職員	会社員・団体職員	会社員・団体職員				
		会社・団体役員	会社・団体役員	会社・団体役員	会社・団体役員				
		自営業・自由業	自営業・自由業	自営業・自由業	自営業・自由業				
		学校関係者	公務員	無職	無職				
		無職	学校関係者	公務員	公務員				
		学生	無職	学校関係者	学校関係者				
		公務員	学生	学生	学生				
		専業主婦(夫)	専業主婦(夫)	専業主婦(夫)	専業主婦(夫)				
		その他	その他	その他	その他				
		第1部 印象		非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った		
役に立った	役に立った			役に立った	役に立った				
あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった			あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった				
役に立たなかった	役に立たなかった			役に立たなかった	役に立たなかった				
第2部 印象		非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った				
		役に立った	役に立った	役に立った	役に立った				
		あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった				
		役に立たなかった	役に立たなかった	役に立たなかった	役に立たなかった				
第3部 印象		非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った	非常に役に立った				
		役に立った	役に立った	役に立った	役に立った				
		あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった	あまり役に立たなかった				
		役に立たなかった	役に立たなかった	役に立たなかった	役に立たなかった				
具体的感想		・普段聞くことができないDaigasグループの取り組みを知る事ができた ・エネルギーの多様化への対応についても理解が深まった ・今後のカーボンニュートラルに向けての技術革新の方針が理解できた ・脱炭素のみでなく低炭素化へのステップの重要性がわかった ・メタネーションを軸とした、方向性をお聞きできたので、非常に良かったです ・大ガスの全般的な取り組みに時間を割き焦点がぼやけた	・現地でビジネスを進めている中でのメリット、デメリットをしっかりと説明いただけた ・行政との関わりについても触れられていたことでより理解が深まりました ・インドネシアという近くて遠い国に進出された奮闘の様子がよく伝わりました ・インドネシアの国民性多様性、これからの大国についてよく理解できた ・五嶋様の講義は堅実的なスタイルで具体性があった ・過去の話もありたいが、現在と今後の話をメインにして頂きたかった	・日米関係、米中関係と日本の立ち位置、方策について分かりやすく説明いただいた ・難しい国際環境でのリーダーシップ、それを統率していく政治の重要性を再認識 ・日本も力をつけて、米国の間のショックアブソーバー的な役割を果たす必要がある ・世界で起きている地政学的リスクを歴史の観点からも説明があり、大局的に理解 ・もう少し具体的な米中のお話があった ・直面する諸課題の背景やコンテキストの情報について、もっと話を聞きたかった	・撤退の難しさ、進出より大変な事を知った ・今後のアジアでの事業展開に参考となった ・国の事情・環境を理解した上で判断の重要性を改めて感じた ・鉄鋼業界の世界の状況と日本の海外進出の歴史が理解出来た ・たとえ話ではなく実際にあったことで、かつ内容が具体的にとても参考になった ・もう少しABCプラットフォームや、将来のお話を聞きたかった				
		具体的感想		・パリ協定から政府方針の変更について理解が深まった ・今後のカーボンニュートラルに向けた技術的課題が理解できた ・日本と諸外国の置かれている現状が良くわかった ・脱炭素化に向けて企業としてできることは何か考え直すヒントになった ・専門的な見地から解説をいただき勉強になった ・カーボンニュートラルにどう取り組むのかという部分に絞ったご説明頂きたかった	・マクロの目線で国際情勢の見通しを解説下さり、今後の海外戦略に参考になる ・日米中の関係のなかでのインドネシア、インド、他国との関係が分かりやすかった ・インドネシアが如何に日本にとって重要で、ビジネスチャンスがあるか理解出来た ・政治、地勢、経済等の各切り口でわかりやすく、インドネシアの重要性を聞けた ・インドネシアが2030年度にG5という見方は印象的でした ・今後の日本の方向性を考える上で大変参考になった	・細かいデータを見ることができた。その分析、解説もすばらしく、納得できるもの ・クレジット面におけるこれからの市場動向についてのサジェスチョンとして、有意義 ・大変詳細なDataで経済予測をされており、経済展望のイメージが掴めた ・今年は金利上昇の瀬目の年、ESG投資の更なる拡大、開示の新展開など理解できた ・14つのリスク極めて明快なご説明に感謝 ・少し専門的で、少し早口のため理解しづらかった	・万博開催による関西経済への効果に期待したい ・大阪・関西万博にける事務総長の熱い想いを聞くことができた ・実際に見てこられた「バイ万博」のビジュアル、動画がとてもインパクトがあった ・経済、ビジネス外交も万博の大きなテーマの一つということに認識を新たにしたい ・「バイ」とは違った取り組みで日本をアピールしていくということなどが理解出来た ・中小企業だと切っ掛けの部分が多いので、そこをヒントがもう少しあればと思った		
				具体的感想		・CNを達成することは技術的に問題はないが経済性が課題という事は同感である ・CN達成について企業トップと学術界権威の双方の考えが理解できて良かった ・CNの中に如何にビジネスチャンスを掴んでいくか大事である ・CNを可能な限り万博と結びつけ、未来社会のデザインに組み込まれるべきだと感じた ・本当にわかりやすく理解できた。若い層には違う考え方がある事が理解できた ・時間が少なく、消化不良であった	・ポイントをついたコーディネーターで、良い質問、的を得ていて参考になりました ・銀行の専門家によるインドネシア状況の解析はとて説得力があった ・3代目の若手企業家トップ同士の交渉の発想は、背けるところ ・オムニバス法に関するパネリストの見解など興味深く聞くことができた ・現地パートナーとの信頼関係を世代を超えて継続することの大切さを再認識できた ・時間が短すぎた為、掘り下げ不足。もう少しQ&Aが多くと良かった	・外交面、経済面において今後日本がどのように行動すべきかの指針を示して頂いた ・国レベル、民間レベルで日本に欠けている点、必要な対策を掘り下げて解説 ・最近の国際情勢、日本のしたたかな外交方法等、大変参考になった ・お二人の講師共に、私の持っていない視点からのご指摘であった ・設定されたテーマ、ゲストの先生とにも良かったと思います ・設定されたテーマ、ゲストの先生とにも良かったと思います ・五百旗頭先生の話は、このテーマだけでじっくり聞きたい ・もう少し時間があれば良かった	・万博が世界の平和につながれば良いと思いました。大阪人として協力したい ・丸一鋼管として従業員を万博会場に呼びたいというその心意気に感銘を受けた ・ファシリテーターのとりまとめ方が大変上手で分かり易くフォロー説明が良かった ・万博のレガシーはハード面以外にも人々の心・意識・社会を変えることに感動した ・関西経済を代表する識者皆様のお話に触れさせていただけるだけでも貴重な機会 ・各講演については、演目/題目だけでなく話の内容が分かる小見出しをつけてほしい ・アジア・太平洋の関係のお題もよろしく願っています
						本日のセミナーへ参加しての感想		・CNに向けた現在の状況、今後の目指すべき方向性等よく理解できた ・本テーマを関西万博との関係性からもシリーズで取り上げていただければ大変有難い ・CNは大きなテーマなので、継続的に開催していただきたい ・久々のリアルなセミナーに参加でき、有難く思っております ・YouTubeでトラブルなく快適に視聴でき、資料も講演者も見やすかったです ・後日公開動画を視聴することができました。ありがとうございました	・素晴らしい会場で、かつコロナ対策をしっかりといただいていることにまず感謝 ・ライブ配信でプレゼン画面とプレゼンターを同時に確認出来るのは臨場感がある ・登壇者が経験豊かで、実質的な実情に応じた解決策や展望をお持ちで素晴らしい ・インドネシアという国と国民性、ビジネスの可能性について理解を深めることができた ・もっとパネルディスカッションで様々なテーマに関する議論をお聞きしたかった ・日本サイドの戦略的なシナリオの上で、インドネシアとの関係について聞きたかった

※1:ライブ配信のみ262回(2/17～アーカイブ配信+177)＝439
大阪蔓延防止によるキャンセル増のため、会場参加者減

第9回環境シンポジウム実施結果

<開催概要>

開催日	2021年11月11日(木)
時間	13:30~17:10
場所	シティプラザ大阪 2階 燦の間
テーマ	「プラスチック:サーキュラーエコノミーを考える」
基調講演①	「川から海へ、意識をつなぐ『かめおかプラスチックごみゼロ宣言』 亀岡市 市長 桂川 孝裕 氏
基調講演②	「地域の河川からプラゴミを消したい! ~インドネシアの伝統的粗放型エビ養殖地域における住民たちの思いと実践~ 特定非営利活動法人APLA 事務局長 野川 未央 氏
基調講演③	「サーキュラーエコノミーの全容と世界の最前線」 一般社団法人サーキュラーエコノミー・ジャパン 代表理事 中石 和良 氏(リモート参加)
パネルディスカッション	パネリスト:桂川 孝裕 氏、野川 未央 氏、中石 和良 氏(リモート参加) コーディネーター:総合地球環境学研究所 教授 阿部 健一 氏(財団 環境事業選考委員長)

<アンケート結果>

出席者数	42名(会場) / 322回(web視聴・当日~1ヶ月後)※1		本日の環境シンポジウムへ参加しての感想	
回答枚数	30枚(現地) / 15枚(web)		<ul style="list-style-type: none"> ・社会面・経済面での変革の必要性、豊かな未来社会実現に向けた活動事例や考え方を勉強できた ・環境を資本論から切り込んだ見解はおもしろい、次世代の産業のヒントにも及ぶ、予測等学ぶ所が多い ・パネルディスカッションを聞いて、登壇者の話、取組みがつながっているんだということがよく分かった ・具体的な取組み事例を知る事ができ、非常によい刺激を受けました ・様々な立場の登壇者の方々からお話しが聞けて大変勉強になりました ・中石さんのお話はビジネス側にはとても参考になりました ・今後とも皆様の活動に着目したいと思います ・SDGsの重要性をリマインド出来ました。何をこれからすべきかの活動のヒントを得た ・日本は江戸時代のリサイクルシステムなど進んでいたのに、それに沿った行動や考え方を構築しては? ・各地の取組み事例の紹介はとても参考になるので継続的に事例発表を行ってほしい ・より広い産業と、企業の視点にも次回以降目を向けていただきたいです ・環境課題に取り組み事業とマッチングできるような場があるとありがたいです ・非常に素晴らしい構成で、このようなシンポジウムを全国どこでも参加できるオンライン開催はありがたい ・行き届いた受付など、参加して良かったです ・トラブルがあれつつも円滑な運営で良かったです ・ペットボトルのお茶は少しかかりました 	
回答者業種	<ul style="list-style-type: none"> ・会社員、団体職員 60.0% ・会社・団体役員 17.8% ・自営業・自由業 11.1% ・専業主婦(夫) 2.2% ・学校関係者 0.0% ・公務員 0.0% ・学生 0.0% ・無職 0.0% ・その他 8.9% 			
(1)基調講演①(桂川孝裕氏)評価			(2)基調講演②(野川未央氏)評価	
非常に役に立った	43.2%	非常に役に立った	36.4%	
役に立った	54.5%	役に立った	59.1%	
あまり役に立たなかった	2.3%	あまり役に立たなかった	4.5%	
役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
<ul style="list-style-type: none"> ・数多くの事例を上げて頂き、説明がわかりやすかった ・行政の取組みの成功事例として、とてもわかりやすかった ・レジ袋有料化を国より先に導入し、自然を守るための取組みに市長が積極的に携わっていて素晴らしい ・「環境保全活動は経済効果に結び付く」事は、意識改革の上で一つの手掛かり・動機付けとなつたと考えた ・シビックプライド(市民としての誇り)が市民のふるさとを守る活力になっているのを感じた ・自治体のトップが、どのようなビジョンを掲げて将来像を描いているのか、の重要性を強く感じた ・このような地方公共団体が増え、住民への意識共創で環境対策への大きなムーブメントを期待したい ・市民と自然環境のwin-winの関係を見出し具体化していく政策、新たなプロジェクトに注目したい ・亀岡市の印象は今まで薄かったが、取組みに感銘を受け訪市したくなった。反面、まだまだPR不足では? ・コンビニ等の袋はポリエチレンやポリプロピレン袋で、石油を重油~軽油~ガソリンと利用した残渣の有効利用から作られたと聞く。資源をむだに使われているものではないという認識も必要だと感じた 			<ul style="list-style-type: none"> ・いち早くひとりひとりがプラゴミ問題と向き合い取り組んで排出量を減らしていけないといけなと学べた ・エビの養殖=環境破壊ではなく、環境にやさしいエビ養殖への切り換えの視点が必要だと感じた ・地域住民が自発的に事業や活動を展開することができて、それに行政が後押しするのも、おもしろい ・エココンプリという言葉を初めて知りました。産地での難しい課題に取り組みされている、素晴らしい ・エココンプリの養殖は現地の方々には大切な収入源で守っていただきたい ・「目先の利益ではなく、河川を「未来の子孫からの預かりもの」として次の世代に引き継ぐ姿勢は参考になった ・インドネシアの文化・環境の中、地道な活動が具体的に行動に転換でき、更に進展するのが心強い ・インドネシアにおける実状と取組みがよくわかった ・自分たちで考え、作り出したシステムであるということが良く理解できた ・ボトムアップの取組みから、コミュニティでの連携が生まれるのが良かった ・日本は尿処理を含めて世界-ゴミ関連を有効に利用している国であると思う。プラスチックから再び油を作ったり再生する技術もあり、現地の産業として結びつけられればと思う。国内の活動組織も連携して行くべきだ 	
(3)基調講演③(中石和良氏)評価			(4)パネルディスカッション評価	
非常に役に立った	55.0%	非常に役に立った	40.0%	
役に立った	42.5%	役に立った	56.0%	
あまり役に立たなかった	2.5%	あまり役に立たなかった	4.0%	
役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の考え方でサーキュラーエコノミーの発想は初めて知りました ・サーキュラーエコノミーの概念、世界的な傾向と日本の現状がよく理解できた ・ESG投資の重要性、環境価値→社会価値→経済価値(企業価値)の考え方に共感 ・企業として、ビジネスに通じる取組みとしての成長戦略に盛り込んでいく必要があると感じました ・最終的な目標は、国や世界が掲げる数値を達成することではなく、企業として成長し、ひとりひとりの生活が豊かで安心な生活を続けられることだと改めて認識した ・欧米主導のグローバルスタンダード作り疑問を感じる ・日本は積極的にサーキュラーエコノミーの基準作りにも今後参加すべきだし、新しい提案もお願いしたい ・西洋型豊かさの固定概念を変える教育やイメージがもっと必要だと広めるべきだろう ・循環型経済は、未来の世代に持続可能性な社会を継承していくには必要なことだと改めて感じた ・環境の上に、社会・経済価値がのっている事(亀の理論)を踏まえて自然システムの再生に取り組むみたい ・地球規模の課題をどう解決していくか大変難しい問題であると思った ・具体例が少ない 			<ul style="list-style-type: none"> ・講演では聞けなかったより深い話しや取組みが聞けてよかった ・阿部先生のコーディネートが非常に良かった。「必要なものを循環させていく」という言葉が心に残った ・阿部先生の鋭く、柔軟なコーディネート、ご質問とパネリストの方々の回答が非常に印象深かった ・立場の異なる方々のパネルディスカッションで、サーキュラーエコノミーの意味、考え方がよく理解できた ・亀岡市長のお話で若者への意識づけ、教育として、市民だけでなく京都に修学旅行生を対象に体験型学習を計画されている話を聞いて非常に面白かった ・国内(更に地域内)での循環でサーキュラーエコノミーを展開できる取組みを目指すことが大切だと学べた ・今後、どのように取り組むべきか、どのように展開されていくかについて、考えるよいきっかけとなった ・基調講演の事例が表すとおり、スタートは国や組織ではなく、個人の具体的な行動からつくっていくのがいいと感じた ・組織はそのベクトルを示すのと、経済的支援やアフターフォローをすることで推進できるのかと感じた ・SDGsが当たり前の行動となるような時代となればと感じることができました ・サーキュラーエコノミーは手段ではなく、未来の子供たちとよりよい地球を作っていくのだという提言 ・コストと理想をどうするか企業の課題 	

※1:ライブのみ185(+1ヶ月後の桂川氏137)の数値を使用) = 322
第3部非公開につきライブ配信終了後、それぞれの講演の動画を作成し公開とした。

2022年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

調査研究助成

《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
チベットにおけるインド仏教の伝播と受容 —アティシヤの活動を中心に—	PAK HEE EON	筑波大学大学院 博士後期課程	100,000
中華人民共和国成立初期における外国人管理と外交 :その実態、変遷と意義	景 旻	東京大学大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻博士課程	750,000
「海賊」をめぐる17世紀の地中海 :オスマン朝—ヴェネツィア間の海上秩序	末森晴賀	北海道大学大学院 文学研究科博士課程	550,000
インドネシア農村女性の伝統的薬草療法利用と ウェルビーイングに関連する人類学的研究	杉野 好美	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士後期課程	870,000
近現代の中国ムスリムにおける共同体意識の構築 :「ウンマ」概念に対する理解から	何 家歆	京都大学大学院 アジアアフリカ地域研究研究科	500,000
稲作経営間での生産要素の相互利用による生産力強化の可能性 —タイ国における稲作農家の組織化政策を事例に—	遠山 裕基	鳥取大学大学院 連合農学研究科 博士後期課程1年	500,000
軍事基地の近隣を生きる :マーシャル諸島共和国イバイ島における都市形成の歴史人類学的研究	大竹 碧	京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程	700,000
無形文化の複層的資源化 ——タイ北部リスの舞踊にみる持続的開発の戦略	内住 哲生	東京都立大学大学院 人文科学研究科 博士後期課程	520,000
現代イースター島社会におけるラバ・スイ文化の尊厳に関する民族誌的研究	内尾 太一	麗澤大学 国際学部 准教授	500,000
オセアニアにおけるアオウミガメの保全・保護と伝統的利用の両立に関する研究	山口 優輔	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士後期課程1回生	1,000,000
中国青海チベット族慣習法の実践とその変化	彭 毛措	金沢大学 人間社会環境研究科 博士後期課程	1,000,000
太平洋島嶼国における祭祀儀礼から生活実践までの 身体技法とその継承方法の人類学的研究—フィジー共和国を中心に—	緒方 良子	北九州市立大学大学院 社会システム研究科 地域コミュニティ専攻博士前期課程2年	530,000
人新世を生きる現代メラネシアの人々 :熱帯雨林伐採と現地の人々の自然認識の交点から考える	橋爪 太作	早稲田大学 人間科学部 助手	450,000

《共同研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
東アジアにおける米軍基地の連関・周辺都市形成に関する学際的研究	成田 千尋	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員	1,500,000

助成金合計
14件 9,470,000円
(2022年3月助成実施)

2022年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

国際学術交流助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
国際会議“Sects and Sectarianism in Chinese Islam”	海野 典子	早稲田大学 高等研究所 講師	2,000,000
第15回 国際考古動物学会 南西アジア分科会の開催 「家畜と牧畜文化の東ユーラシア・東南アジアへの伝播と受容過程」 (The 15th ASWA, Tokyo- Archaeozoology of Southwest Asia and Adjacent Areas: Spread of animal husbandry to Eastern Eurasia and Southeast Asia)	本郷 一美	総合研究大学院大学 先端科学研究科 准教授	1,900,000

助成金合計
2件 3,900,000円
(2022年3月助成実施)

出版助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成金額
「出入国管理の社会史:戦後日本の「境界」管理のはざま」の出版	李 英美	一橋大学大学院 社会学研究科 科研費フェロー	1,200,000
中国黄海島嶼漁民の人類学	緒方 宏海	香川大学 経済学部 准教授	1,200,000
『カンボジア「クルー・チャタン」の時代 —ポル・ポト時代後の初等教育—』の出版	千田 沙也加	京都大学 東南アジア地域研究研究所 日本学術振興会特別研究員 (PD)	1,200,000
近代中国の国家主義(ナショナリズム)と軍国主義(ミタリズム)	小野寺 史郎	京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授	1,200,000
ラオス山地民とラム歌謡 :内戦を生き抜いた宗教・芸能実践の民族誌	平田 晶子	東洋大学アジア文化研究所	1,200,000
『日本占領期上海の文学とメディア』の出版	山口 早苗	東京大学大学院 総合文化研究科 学術研究員	1,200,000

助成金合計
6件 7,200,000円
(2022年3月助成実施)

2022年度りそな環境助成 一覧表

活動題目(企画名)	申請者	研究者所属	助成金額
モンゴル国における生物多様性保全教育センター および栽培基地の構築	思 沁夫	一般社団法人北の風・南の雲 代表理事	1,000,000
ミャンマー・シャン州インレー湖周辺地域における 水質浄化啓発活動―「みんなで湖を守る」を形にするために―	柴田 京子	特定非営利活動法人 地球市民の会	1,000,000
ベトナム中部山間部での地域資源と在来知の活用による 生態系保全、生計向上および社会的弱者層の支援に 資する在地生業群の創発と展開	田中 樹	摂南大学 農学部 教授	1,000,000
インドネシア・南スラウェシのエビ養殖地域における 住民主体の環境保全活動モデルの構築	野川 未央	特定非営利活動法人APLA 事務局長、理事	1,000,000
持続可能な里山地域づくりに向け、バイオガスプラント設置による 有機肥料生産から動物糞の適用利用システムと、ゴミ分別による ゴミのリサイクルシステム導入から資源循環をめざした 地域環境システム形成活動	熱田 典子	公益社団法人 アジア協会アジア友の会 副事務局長	1,000,000
交流を通じて自走するカンボジア・東ティモールの 持続的な環境教育	下田 寛典	合同会社PLC 代表社員	1,000,000
カンボジアにおける資源循環型農業の確立をベースとした 教育支援システムの構築と自立できる農家の育成	小関 皆乎	「藪の傍」代表	1,000,000
バリ島と徳之島・佐渡島の子どもたちのまなびあい ～自然と共生する持続可能な地域づくりに向けた環境学習～	山田 理恵	一般社団法人あいあいネット 理事	1,000,000
フィリピン・ルソン島北部山岳地方における地域の民話を ベースとした環境教育教材としての民話絵本とラジオドラマ 制作プロジェクト民話絵本とラジオドラマ制作プロジェクト	反町 眞理子	Cordillera Green Network Inc. Advisor	1,000,000

助成金合計
9件 9,000,000円
(2022年3月助成実施)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項は無い。